

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

小学5年生・学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・それぞれの人がそれぞれの特徴をもち、それが人間の違いとなって表れてくることを理解させ、障がいも人間の個性として認め合うことができるようにする。

実施した内容

- ・「ちがうことばんざい」の資料をもとに個性について話し合う。（1時間）
- ・自分の個性や存在を見つめなおし、それぞれが自尊感情をもち、力を合わせることの大切さを理解する。

工夫した点

- ・自分や友達の長所について発見し、紹介する活動により、それぞれが唯一の個性をもつかけがえのない存在であることに気付かせた。

他教科との
関連

- ・国語科の「からたちの花」で、自他の個性のすばらしさに気付かせ、尊重し合うことの大切さを話し合った。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

小学5年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・家庭内や地域社会の因習に目を向けさせ、何気なく続けている行事などの中に、不合理で人権侵害につながるものがないか話し合い、自ら解決しようとする態度を育てる。
- ・世の中の性別による差別に対して、身近なところから解決していこうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・「不合理なしきたり」の資料を通して、性別による差別をなくし、それぞれの願いに合う自己表現をすることの大切さに気付く。（1時間）
- ・自分たちの生活にある性別による差別について話し合い、自分たちから解決していこうとする意識を高める。（1時間）

工夫した点

- ・事前アンケートを通して、自分や家族が日頃感じている「女性差別」について捉え、実際の生活の中の課題として、具体的に解決していこうとする意欲をもたせた。

他教科との
関連

- ・家庭科で、おいしい楽しい調理のことを学習し、男女の役割について話し合った。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

小学5年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・高齢者に対する偏見や思い込みを取り除き、高齢者の人権を尊重し、共に生きていく意識を高める。
- ・高齢者との出会いや交流を通して、ちがいを認め合い、過ごしやすい町にするために、共に生きる自分たちに何ができるのかを考え、実践していこうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・高齢者の生活の様子について話し合ったり、疑似体験を行い高齢者に対する理解を深める。（2時間）
- ・高齢者の受ける人権侵害について理解を深める。（1時間）
- ・介護老人福祉施設など、高齢者が利用する施設について調べる。（2時間）
- ・高齢者の方との交流を通して学ぶ。（8時間）

工夫した点

- ・これまでは、現地に赴いて実際に交流できていたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は、地域にある介護老人福祉施設と、オンラインやビデオレターを通じて交流を図った。

他教科との
関連

- ・道徳科「「ちがうことばんざい」「人権が大切にされるまちづくりをめざして」で、多様性や基本的人権について学んだ。

令和 3 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

小学 4 年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・表面だけの判断でなく、生活の中で相手の気持ちや願いを知ることの大切さを理解させる。
- ・障がい者との交流を通して互いの違いを認め、尊重し合い共に生きていく社会を築こうとする態度を養う。

実施した内容

- ・障がい（聴覚がい害者，視覚障がい者，肢体不自由者など）のある方の生活について調べ、話し合う。（3時間）
- ・実際に障がいのある方と交流し，生き方や思い，願いを知り，障がい者に対する理解を深める。（4時間）
- ・調べ学習や体験を通して学んだことをまとめ，自分たちにできることを考える。（3時間）

工夫した点

- ・体験や外部講師など，多くの人・ことにであうようにした。
- ・話し合い活動で，考えを共有できるような時間を多くとった。
- ・相手の人の思いや願いは何か，常に意識して話を聞いたり考えたりするようにした。

他教科との
関連

- ・体育科で，ボッチャなどの障がい者スポーツを体験した。
- ・総合的な学習の時間に，防災学習と関連して学習した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

小学6年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・ 部落差別の解消に向け、自分に何ができるかを問い、差別をなくしていこうという態度を育てる。
- ・ 不合理な差別の中を生き抜き、差別を乗り越えてきた人々の姿を通して、自らの生き方を問い直していく。

実施した内容

- ・ 「洗染一揆」（ひかり資料）、「解放令」（ひかり資料）を通して、封建的な身分制度の根強さと新たな身分制度（華族・士族・平民）の成立による不合理に対して憤りをもたせるとともに、差別解消への意欲をもたせる。（2時間）
- ・ 「水平社運動」（ひかり資料）、「教科書無償運動」（ひかり資料）を通して、運動に取り組んだ人々の血と汗、困難に立ち向かい克服するすばらしさを理解させる。（2時間）
- ・ 「くらしを支えた仕事や伝統文化」（ひかり資料）を通して、地域社会にかかわる伝承文化を支えた力として、被差別の立場におかれた人々が社会的・文化的に重要な役割を果たしたことを理解させる。（1時間）
- ・ 「識字学級と学習会・人権が大切にされるまちづくりをめざして」（ひかり資料）を通して、部落差別の不合理さ・不当性をしっかりと理解させるとともに、識字学級の方との交流や識字学級に携わってこられた方話から、差別に憤りを持ち、差別をなくしていこうとする意識と態度を育てる。（5時間）

工夫した点

- ・ 資料だけの学びに終わらず、識字学級との方と交流し、思いや願いを知ることができるようにした。
- ・ 識字学級の共学者としてかかわってこられた方に話を聞くことによって、これまでの取組や識字学級や学習会への思いや願いを理解できるようにした。

他教科との
関連

- ・ 社会科において、歴史を学ぶとともに、憲法における基本的人権について学習した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

小学6年生・社会科

目標・人権教育のねらい

- ・鎖国により、アイヌの人々の生活の場や文化が奪われていったことを認識し、アイヌの人々に対する間違った差別をなくそうとする意欲をもたせる。

実施した内容

- ・「アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－」（資料）、映像、絵本を活用し、アイヌ民族の歴史や文化について学習を進める。（2時間）

工夫した点

- ・社会科において憲法学習の「基本的人権の尊重」の一つとして取り上げた。また、和人の歴史と比較し、アイヌの民族と和人の交易の変化などを通して、シャクシャインの戦いの経過を理解させた。
- ・学校で学習したことをまとめ、家族に報告する機会をもち、感想を書いた。

他教科との
関連

- ・総合的な学習の時間に、他の人権問題について学び、正しい知識と理解が大切であることや学んだことを発信し、差別解消に向けてできることを考える時間をもった。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

小学4年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・外国人に対して正しい知識をもち、偏見をもたず平等に付き合おうとする態度を育てる。
- ・外国の文化も日本と同じように、素晴らしい文化があることを理解させる。

実施した内容

- ・「わかってくれるかな」（ひかり資料）をもとに、国籍や文化、言語の違いをプラス面としてとらえ、子どもたちが互いに認めることの大切さを学ぶ。（1時間）

工夫した点

- ・ペア学習を取り入れ、自分の考えをしっかりと相手に伝えることができるようにした。
- ・「障がい者」や「もちあじ」といった既習事項と結び付け、様々な違いはあるが、それぞれのもちあじが大切であり、自分の国や大切な名前をほこりに思うことにより、違いを個性としてとらえ、互いに尊重できるようにした。

他教科との
関連

- ・外国語活動で、ALTと活動するとともに、外国語に親しんだ。
- ・音楽科において、「日本の音楽」や「世界に伝わる歌、リズム」を鑑賞し、文化の違いやリズムや響きの特徴に気付き、大切にしようとする学習を行った。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

HIV感染者等

対象学年・
取り扱った教科等

小学6年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・エイズについて正しい知識をもたせ、エイズ感染者に対する間違った偏見とそこから生まれる差別が間違いであることを理解させ、共に生きようとする態度を育てた。

実施した内容

- ・「わたしの友だちのこと」（ひかり）を用いて、エイズに対して正しい知識をもち、一人一人の自尊感情を高め、互いが大切な存在であること理解する。（1時間）

工夫した点

- ・エイズについては、中学校で詳しく学習するが、保健体育の「感染症の予防」と合わせて学習し、日常生活ではうつらないことをきちんと押さえた。
- ・新型コロナウイルス感染症やハンセン病とも関連付けて、間違った情報が、偏見につながりそこから生まれる差別が間違いであることを理解させた。

他教科との
関連

- ・総合的な学習の時間において、ハンセン病や新型コロナウイルス感染症における偏見や差別と関連させて学習した。
- ・保健体育科において、「感染症の予防」と合わせて学習した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

小学6年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病という病気について、正しい知識を身に付け、知ろうとしないことや無関心が偏見や差別につながることをとらえさせる。
- ・阿南市出身でハンセン病患者である北條民雄の生き方や著書について学び、差別や偏見の実態を学び、正しい知識を身に付け差別解消に向けて実践できるようにさせる。

実施した内容

- ・資料を活用し、ハンセン病について正しい知識を身に付け、無関心が偏見や差別につながることをとらえる。（1時間）
- ・ゲストティーチャーの話を聞いて、今もなおハンセン病による人権侵害にあたる事象が起きていることを知り、差別を残してきた社会に対する憤りをもつ。（2時間）
- ・ゲストティーチャーを迎え、ハンセン病と闘いながら創作活動を続けた阿南市出身の作家、北條民雄さんの生き方を学び、その無念さと同時にそれでも懸命に生きようとした誠実さに共感する。（2時間）
- ・小さな架け橋（ひかり資料）を用いて学習し、患者の思いを理解する。（1時間）
- ・元患者の方とオンラインで交流し、周囲の人々の偏見や差別は、患者だけでなく最愛の家族まで苦しめ、人権や人格を奪い取ってきたことを理解する。（2時間）
- ・元患者や家族に対する差別や偏見の解消に向け、「人権CM」を制作し、近隣校の6年生に発信する。（3時間）

工夫した点

- ・学んだことを思考ツールやタブレットを活用してまとめ、差別解消に向け、同じ中学校区の6年生へ発信した。
- ・資料・ゲストティーチャー、元患者の方とのためタイミングや順番を意識し、単元を構成した。
- ・総合的な学習の時間に他の人権問題について学び、正しい知識と理解が大切であることや、学んだことや体験したことから、差別解消に向けて自分たちができることを考え、発信する時間をもった。

他教科との
関連

- ・社会科において、憲法学習の「基本的人権の尊重」の一つとして取り上げた。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

小学5・6年生・学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・資料の事例から、インターネットを利用して、情報を扱ううえでの守るべき規則やマナーについて考え、人権を守る視点から、よりよく情報を活用していこうとする実践的な態度の育成を図る。

実施した内容

- ・e-ネットキャラバン安心講座（オンライン）を受講し、ネットの正しい使い方やトラブルについて学び理解を深める。（1時間）
- ・学級の実態に合わせ、深めたい内容について学級ごとにネットの正しい使い方について話し合い、学んだことを振り返り、これから自分が気をつけることをまとめる。（1時間）

工夫した点

- ・e-ネットキャラバンの講座内容で、本校で実際にあったトラブルを連絡し、その内容について少し詳しく内容を話していただいた。
- ・学年や学級によって、実態が違うので講座で学んだあと、担任がそれぞれ深く学習したい内容を学級で話し合うようにした。
- ・インターネットには、メリット・デメリットがあり、使用する人次第である。相手を思いやるのがすべてにつながるということをわかりやすく話した。

他教科との
関連

- ・社会科で情報社会の実態について調べた。
- ・総合的な学習の時間において、調べ学習等を通して、個人情報等の扱いについて学んだ。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

性的指向, 性自認

対象学年・
取り扱った教科等

小学2年生・生活科

目標・人権教育のねらい

- ・性別にとらわれず、自分らしさを大切にしようとする態度を養うとともに、多様な個性を認め合い、互いに尊重し合う心情を育てる。

実施した内容

- ・「かみひこうき」（資料）をもとに、男だから女だからではなく自分らしさが大切だということを学ぶ。（1時間）

工夫した点

- ・授業前に、ワークシートに好きな色をぬらせておいて、授業の最初に友達と見せ合い、好きな色は性別で分けられるものではなく、個性と深く結びついていることに気付かせた。
- ・意見交換することで、自分で選び決定することの大切さや友達が選んだことを尊重する大切さに気付かせるようにした。

他教科との
関連

- ・生活科「あしたへジャンプ」で、自分の成長を見つめ自分らしさの大切さを学習した。
- ・道徳科「わたしのよいところ」（シーボーしんぶん）で自分の特徴に気付き、大切にしようとする学習や、「いのちをそだてる」（わたしのものがたり）で、自分の力を発揮して、かけがえのない生命を大切にしようとする学習をした。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

公害

対象学年・
取り扱った教科等

小学5年生・道徳科

目標・人権教育のねらい

- ・水俣で起きた公害問題から、工場側の利益を追求することで、人権が踏みにじられてきた経過を理解させる。
- ・怒りをもって戦い抜いた水俣の人たちの姿を通して、共に立ち上がり、差別に立ち向かおうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・社会科の学習と関連付け、水俣病がどのような社会的背景から発生したのかを正しく理解する。（1時間）
- ・「水俣から」（ひかり資料）により、身体的な障がいの上に、「ねこおどり病」や「奇病」などと呼ばれ、世の中の偏見や差別に苦しめられた患者たちの痛みや悲しみを理解し、差別をなくしていこうとする意欲を育てる。（1時間）

工夫した点

- ・水俣病の発生時の事情や、世の中の差別の実態について、寸劇で表現することにより様々な立場の人々の気持ちに共感させた。
- ・インターネットや資料の調べ学習を通して、当時の様子を詳しく知り、現代社会にもある病気に関する差別について理解を深めた。

他教科との
関連

- ・社会科にて、基本的人権や生命尊重について学習した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

SDGs

対象学年・
取り扱った教科等

小学5・6年生 児童会活動

目標・人権教育のねらい

- ・SDGsに取り組むことは、様々な立場からの考えを尊重し合うことであり、誰にとってもよりよい未来を創るために行動することが大切であることを理解させる。

実施した内容

- ・カードゲームを体験しながらSDGsについて学ぶ。（2時間）
- ・学習したことを生かして、委員会活動で取り組めることを考える（1時間）
- ・個人で考えたことを委員会で話し合い、取り組むSDGsについて話し合う。（1時間）
- ・各委員会で実際に取り組み、全校に呼びかける。（随時）

工夫した点

- ・SDGs公認ファシリテーターの方を招いて、学習した。
- ・全校の人権コーナーに、SDGsについての絵本やすごろくなどを置き、自主的に学べる場所を設定した。
- ・校内研修でSDGsを扱い、教職員の理解を深めた。

他教科との
関連

- ・総合的な学習の時間に、様々な人権問題を学習する中で、SDGsが人権と深くかかわっていることを学んだ。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

徳島県

学校名

阿南市立見能林小学校

人権課題

新型コロナウイルス感染症

対象学年・
取り扱った教科等

小学4年生 学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・新型コロナウイルス感染症について正しい知識や正しい予防の方法を理解させる。
- ・新型コロナウイルス感染症に対する間違った情報が、偏見につながりそこから生まれる差別が間違いであることを理解し互いに助け合っていこうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」（日本赤十字社）の資料を活用して、「病気」「不安」「差別」のつながりについて理解する。（2時間）
- ・学んだことを振り返って、生活を見つめなおし人権作文に取り組む。（2時間）

工夫した点

- ・昨年度もこの資料で学習していたので、特に「不安」にならないための工夫や気持ちのもちようについて深く学習を進めた。
- ・日本赤十字社が作成しているワークシートを活用し理解を深めた。

他教科との
関連

- ・図画工作科で、新型コロナウイルス感染症をもとに人権ポスターを描いた。